

**第2回**  
**「おおた生涯学習推進プラン」推進会議**  
**資料**

令和5年10月27日（金）

## (1) ありがた検討について

### 重点的取組3「地域の学びを支える施設や事業の拡充」のうち、3つの取組について総合的に検討する

学びに関する相談対応機能の充実

生涯学習センター・コーナー機能  
の拡充

区民に身近な施設を活用した  
生涯学習の推進

### 委員からのご意見

- 重点的取組が3つある中で、重点的取組1「地域力を生かし育て、学びとつながりの循環の創出」が最も重要。いかにつながりを創出し、学んだものを生かしていくのか、つながること、循環が最も重要。
- 生涯学習はつながりを作るだけでなく、その後の活動に循環させるというように、行政でやる限りは、ある意味社会をより良くし、まちづくりにつながるというような社会課題を解決する意味合いを持たせる必要がある。
- 相談対応機能という点では、団体を紹介するだけではなく、大田区の現状をよく理解したコーディネーター役が必要。継続的に生涯学習を推進するには、地域の住民が主体的に企画、運営できる仕組みが必要。
- ハード面の検討だけではなく、ソフト面（仕組み、体制、人材育成）も合わせて検討すべき。
- 地域の交流を深めるための行事を実施しているが、リーダーの成り手がいない。もう少し幅広い年代の人が参加してほしい。
- 生涯学習で一人一人がいろいろなことをするときには、これをすると仲間ができる、小遣い稼ぎができる、環境・人間良くなるなど、自分に対するベネフィットがあると思う。それを動機づけのようなものとするということを考えながらやっていくことが必要。

## (2) あり方検討について：モデルケースとして検討する施設

区民に「身近な施設」である、図書館、文化センターをモデルケースとして、地域での学びを支える施設の役割・機能について検討していく

地域での学びを集約、コーディネートする「生涯学習センター」のあるべき姿（機能・配置等）について検討する

### 委員からのご意見

- 文化センターをモデルケースとして、取組を検討していくのは効率的。
- シンボリックなセンターはあったほうが良い。そこへ行けば全ての情報が集約されており、人と人のつながりができるというようなシンボル（施設）は大きくなくても良いがあったほうが良い。
- 日頃行く施設は、徒歩圏にある文化センター、図書館などとし、それらの施設と全ての情報等が集まっているシンボリック拠点として、生涯学習センターがあった方が良い。
- 「大田区も生涯学習を頑張っている」と他地域の人から見てもわかる生涯学習センターはあった方が良い。
- どちらかというとな注力して考えていくべきなのは、生涯学習に親しみがなかった区民であり、区民に積極的に利用されていた図書館に重点を置いて考えていったほうが良い。

## (3) あり方検討の進め方について：スケジュール

開催回	時期（予定）	主な検討内容（予定）	区民等へのヒアリング	
第1回	令和5年 7月31日	① モデルケースとして検討する施設について ② 各施設の概要 【意見交換】		
 第2回	令和5年 10月27日	① 施設の現状（文化センターの見学） ② 事例紹介 【意見交換】 ・学び始めたいくなる場とは ・学びとつながりの循環が生まれる場とは	令和5年 11月27日	ワークショップ
第3回	令和6年 1月19日	① ワークショップ結果報告 ② 地域の学びの場の役割・展開案 ③ モデルケースとする各施設の役割 【意見交換】 ・地域の学びの場の役割 ・各施設の役割		
第4回	令和6年 5月	①各施設の機能・人材等 ②生涯学習センターの配置について 【意見交換】 ・各施設の機能・人材等について		
第5回	令和6年 10月	【意見交換】 検討報告書素案について		
第6回	令和7年 1月	【意見交換】 報告書最終案について		

# 議題1 第1回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議 振り返り

## (4) 第1回推進会議 意見交換で挙げたキーワード

学びとつながりの循環の創出

多世代交流

担い手(人材)

コーディネート

裾野を広げる

生涯学習に親しみがない人

## (5) 学びと地域力

### 【おおた生涯学習推進プラン基本理念】

学び つながり 地域力ではばたくまち

#### 【地域力】

区民一人ひとりの力を源として、自治会・町会、事業者、団体・NPOなど様々な主体が持っている力、それら相互及び区との連携・協働によって生まれる力を含んだものであり、防犯・防災、福祉、子育て、教育、産業、環境、国際交流、まちの魅力づくりなど、多様な課題を解決し、魅力ある地域を創造していく力（大田区基本構想）

### 社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割

#### 人づくり

自主的・自発的な学びによる知的欲求の充足、自己実現・成長

#### つながりづくり

住民の相互学習を通じ、つながり意識や住民同士の絆の強化

#### 学びと活動の好循環

#### 地域づくり

地域に対する愛着や帰属意識、地域の将来像を考え取り組む意欲の喚起  
住民の主体的参画による地域課題解決

平成30年12月21日  
中央教育審議会  
「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」概要版から抜粋

### (1) 社会教育関係団体

学習・文化・スポーツなど、社会教育に関する活動を目的とした団体と青少年の健全育成に資する活動を目的とした団体を登録する制度。団体の主体的な活動を支援することで、他団体や区民、地域とつながるきっかけを創出することを目的としている。

- 登録団体数 1,997団体（令和5年3月末）
  - スポーツ団体 1,079団体、文化団体512団体、学習118団体、総合21団体、その他8団体
  - 少年育成団体 259団体
- 日常的な活動場所（生涯学習に関する基礎調査から）
  - 文化センター60.3%、区立小・中学校29.8%、区民センター・集会所25.6%等

### (2) 特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず

1992年に大田区社会教育女性セミナー「老いを豊かに」受講後、参加メンバー有志により「大田区の高齢化社会を考える会」が発足した。1996年には、手助けを必要する人と手助けができる人がともに会員となり、安心して暮らせる地域社会の実現のため、「高齢化社会を考える会たすけあい大田はせさんず」が発足した。

現在では、特定非営利活動法人として、会員制たすけあい事業、介護予防事業、介護保険事業、障害福祉サービス事業、市民後見事業、広報・調査事業等を展開している。

【「特定非営利法人たすけあい大田はせさんず」HPから引用】

## (3) 武蔵野市立ひと・まち・創造館 武蔵野プレイス



人々の交流が自然に生み出される「場」を提供し続けることにより、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、障害学習、福祉、教育などといった横断的な活動やネットワークの活性化を促す。

一人ひとりが自らの人生をより豊かなものとするための主体的な学習機会、地域の課題を解決する上での判断材料を提供し、「アクションの連鎖」が起こり得る「場」を提供することを目的としている。

「アクションの連鎖」（気づく→知る→参画する→創造する）を支援するため、「図書館機能」のほか、「生涯学習支援機能」、「市民活動支援機能」、「青少年活動支援機能」が混在している。



ワークラウンジ  
(市民活動団体向けのオープンスペース)



スタジオラウンジ  
(青少年向けのフリースペース)

【「武蔵野市立武蔵野プレイス」HPから引用】

## □ 学び始めたくなる場とは

- ・ 意図していなくても何かが見つかる
- ・ 明確な目的がなくても立ち寄れる

## □ 学びとつながりの循環が生まれる場とは

### ブレインストーミングの4つのルール



質より量



他の意見やアイデアを批判しない



楽しく自由に



アイデアをまとめる



## (資料1) 文化センター

- 文化センターは、区民に**研修、集会及び自主的な社会教育活動の場を提供**することにより、区民の**文化活動及び地域活動の促進**を図り、文化の向上及び地域の振興に寄与するために設置された施設【大田区立文化センター条例第2条（設置）】
- 所管は地域力推進部（特別出張所）、直営（業務委託含む）
- 施設利用申請のおよそ**7割が社会教育関係団体から**であり、主にサークル活動の場として活用されている
- 文化センターが主催する事業は年1回の「文化センターまつり」だが、新型コロナウイルス感染症のため令和2年、3年は中止となっている（令和4年は1か所のみ「文化センターまつり」を開催した）

	設置年	延床面積 (㎡)	主な諸室等	利用団体連絡 協議会有無
美原文化センター	S51	1,037	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	○
馬込文化センター	S54	1,208	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	×
南馬込文化センター	S60	1,095	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	×
池上文化センター	S57	1,205	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	×
嶺町文化センター	S62	1,295	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	○
雪谷文化センター	H4	1,352	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、陶芸室、体育室	○
石川町文化センター	S62	903	第一集会室、第二集会室、和室、レクリエーションホール	○
糎谷文化センター	S55	1,224	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、陶芸室A、陶芸室B、体育室	○
羽田文化センター	H30	1,278	第一集会室、第二集会室、第三集会室、第四集会室、体育室	○
萩中文化センター	S61	1,200	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	○
六郷文化センター	S48	1,102	第一集会室、第二集会室、和室、調理室、体育室	○

## (資料2) 図書館

- 区内には16の図書館がある
- 所管は教育委員会
- 資料貸し出し（予約・リクエスト含む）、参考調査（レファレンス）のほか、児童サービス（学校貸出、総合学習への協力、子ども向け行事）、障がい者サービス（宅配、郵送、対面朗読、録音図書 of 作製・貸出、大型活字本の貸出）、団体貸出、ボランティア養成（読み聞かせボランティア講座、音訳者現任講座）、電子書籍貸出サービス、学校図書館支援事業等を行っている

	開館年	延床面積 m <sup>2</sup>
大田図書館	S45	2,151
大森南図書館	S51	1,199
大森東図書館	S57	1,250
大森西図書館	S61	1,201
入新井図書館	S49 (H23移転)	1,015
馬込図書館	S46	1,608
池上図書館	S31 (R3移転)	1,026
久が原図書館	S59	1,200
洗足池図書館	S35 (H8改築)	1,254
浜竹図書館	S46 (H15移転)	984

	開館年	延床面積 m <sup>2</sup>
羽田図書館	H6	1,300
六郷図書館	S47 (H30改築)	1,418
下丸子図書館	S50	1,764
多摩川図書館	S58	1,211
蒲田図書館	S35 (H3移転)	1,259
蒲田駅前図書館	S56	1,710

### (資料3) 生涯学習センター蒲田

- 平成30年7月に消費者生活センター2階に設置された約30㎡のスペース
- 所管は、地域力推進部（地域力推進課）
- 学びに関する情報提供（講座・イベント等のチラシ配架）、フリースペースの提供（生涯学習相談会、団体の打ち合せ等に利用）を主に行っている
- 職員が常駐していないため、利用者からの問い合わせや相談に随時対応することはできない
- おおた生涯学習推進プラン策定時に実施したパブリックコメントでは、生涯学習センター蒲田の機能、スペースは十分でないという意見が複数寄せられた

